

令和3年度 北海道教育大学函館校国際地域学科国際協働グループ
編入学試験小論文問題

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開かないこと。
- 2 この問題冊子は、白紙1枚と問題本文2ページ、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚あります。
- 3 「問題1」「問題2」すべてに回答すること。
- 4 解答用紙は、「問題1」「問題2」それぞれ1枚あります。
- 5 解答は解答用紙に横書きとし、句読点および段落の空白も1文字とし、指定された字数内でまとめること。ただし、題・氏名は記入しないこと。
- 6 受験番号は、解答用紙の指定欄に記入すること。
- 7 解答用紙2枚を提出し、問題冊子・下書き用紙は、試験終了後持ち帰ること。なお、いかなる理由があっても解答用紙以外は受理しません。
- 8 試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

試験問題

次の文を読み、問題 1 と問題 2 に回答せよ。

開発援助においては、受益する住民を様々な活動に参加させることが重要であると広く認識されている。参加型の援助（参加型アプローチ）では、援助する側が一方的に物資やサービスの供与、施設の建設を行うのではなく、受益する住民に計画から実施や評価までの活動に参加を求めている。また、参加型アプローチは、援助効果を高める上で重要との調査結果も広く知られている。

参加型アプローチは、既に 1950 年代、1960 年代に USAID（United States Agency for International Development、アメリカ政府の援助機関）と他の援助機関による共同組合制度、コミュニティにおける開発や地方分権に関する資金援助で見られた。1970 年代には一時参加型開発への関心が薄れたが、この動きとは別に 1970 年代に開発援助分野で注目され始め、さらに 1980 年代になると、大規模な開発プロジェクトの問題として、貧困者の力を奪い、格差を拡大することが指摘され、弱者の参加が注目され始めた。

1989 年 12 月に OECD（Organization of Economic Cooperation and Development、経済開発協力機構）の開発援助委員会は、「1990 年代の開発協力にかかる政策声明」を公表し、参加型開発を 1990 年代の最重要課題として挙げた（国際協力事業団 2001：「国際協力と参加型評価」、参加型評価基礎研究）。さらに、1990 年代にはトップダウンの実施方法も問題視されたことから、社会開発の主流化と関係者（stakeholders）のエンパワーメント重視とともに、開発援助の主要な実施方法として参加型アプローチが取られ、参加型によるプロジェクトが増加するようになった。ここでいうエンパワーメントとは、関係者が自分達の望むような社会変革を起こすために、選択と行動する能力を付け、実際に行動に移せることとする。

1996 年 5 月に採択された「21 世紀に向けて：開発協力を通じた貢献」、通称 DAC 新開発戦略（OECD/DAC 1995）においても、途上国の主体性（オーナーシップ）や参加型の持続可能な開発プロセスの重視がうたわれている。また、国際協力機構は（国際協力事業団 2001：「国際協力と参加型評価」）、プロジェクト管理における効率性及び実効性の向上の観点からも、地域住民による資源の運営・管理がより効率的で持続可能な運営方法であるとし、参加型アプローチが重視されるようになってきたとしている。

参加型アプローチにおいて問題となるのは、実質参加していない形だけの参加や実態上強制的な参加である。また、参加は開発の成果を上げるための手段であるにもかかわらず、参加が確保できれば良しとする参加型アプローチそのものを目的化することである。何らかの参加をさせること、参加が表題としてプロジェクト計画等に有れば良しとすることや、外部の援助者が望むような参加へ誘導する傾向も、様々な研究者から指摘されている（例えばチャンバース 2000：「参加型開発と国際協力、変わるのは私たち」、

野田直人・白鳥清志監訳、赤石ライブラリー24、赤石書店、及び佐藤 2009 : 『「参加する」のはどちらかーセネガル共和国ティエス州における日本の ODA による開発」プロジェクトの事例からー、千葉大学社会文化研究 第 19 号)。

参加型アプローチで重要なのは、誰が、何に、どこで、何時、どのように参加しているかである (Cornwall 2008: Unpacking 'Participation': models, meanings and practice, *Community Development Journal*, Oxford University Press)。Kyamusugulwa(2013 : Participatory Development and Reconstruction: a literature review, *Third World Quarterly*, Volume 34, 2013, Issue 7) は、参加型アプローチと復興について既存の研究を整理しており、参加型を取る場合、特に地方部においては社会構造や社会関係が変化することを良く理解すべきともしている。また、どの範囲まで住民を参加させるべきかについての課題もある。弱者に配慮した参加型アプローチを取ることも必要である。

問題 1 (50 点)

上記の文を 600 字以内で要約せよ。

問題 2 (50 点)

次の参加型アプローチを取るプロジェクトにおいて、参加型が及ぼす効果について問題 1 の記述も参考とし、自身の意見を必ず理由を付して 500 字以内で述べよ。ニーズ把握、達成感、自信、参加者の能力開発、持続性の 5 つの Keywords をすべて使用すること。

プロジェクト概要

町内の街路の改良、幅は 3m、長さは 1km で改良する長さは 300m 程度。改良は両脇に排水溝を建設し、既存の道路表面は土の状態であり、雨季にはぬかるみ発生により車両の通行が困難な状況にある。そのため砂利を敷いて締め固める。住民に対し、計画策定への参加（改良場所の特定、工事の期間、労働者の確保等）や建設工事への参加（無償労働の提供、砂利の提供）を求める。住民と、参加の方法について、地区担当の行政者も交えて協議を行い合意する。技術的な支援やシャベル、砂利をまくための一輪車、小型トラック等は、援助側が無償で貸し出す。